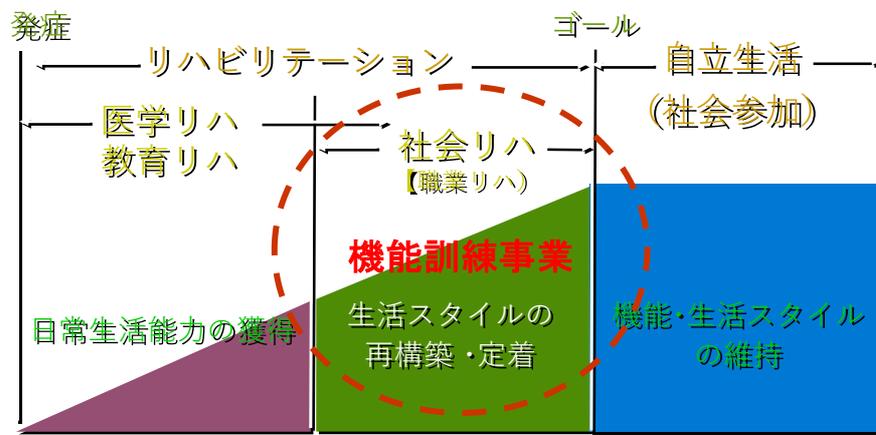


アセスメントのポイント (身体分野)

1

(1)リハビリテーションにおける 機能訓練事業の位置付け



2

社会リハビリテーションにおける 社会生活力とは

■ RI社会委員会の定義: 1986年

社会リハビリテーションとは、**社会生活力**を身につけることを目的としたプロセスである。

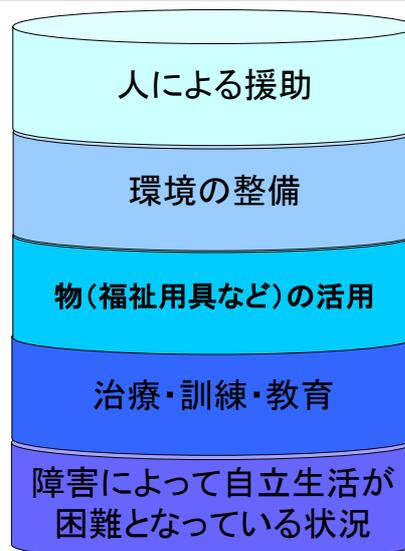
社会生活力 (social functioning ability: SFA)とは、さまざまな社会的な状況のなかで、自分のニーズを満たし、最も豊かな社会参加を実現する権利を行使する力(ちから)を意味する。

社会生活力とは「**自分の障害を的確かつ前向きに認識し、自分に自信をもち、社会の中で活用できる諸サービス(社会資源)を自ら活用して、社会参加していくための力を高めること**」

3

自立生活に向けた支援

- どこまでできる
 - どう補う
(物・環境・人)
- ↓
- 関係機関との連携
 - **制度やサービスの活用**



その人にあつた社会参加の具体化

4

(2)情報の収集・整理を通した利用者理解

- 情報収集とアセスメントは表裏一体の関係にある。
- 把握できている情報を整理し、不足している情報は関係者から収集する。
- 必要がある場合は関係者を召集し、情報の集約・共有化を目的に会議を実施することもある。
- 情報整理シート等の活用等も有効である。
- 整理した利用者情報を活用し、アセスメント（ニーズ・課題を明らかにする）をおこなうことになる。

ICFの視点に立った利用者総体の理解

利用者のニーズや課題は、人と環境の相互作用によって生じてくることを理解する。利用者のストレンクスへの気づきも大切である。

5

点・線・面でとらえる人の理解

- 個(点)としての理解・・・あらわれている状態像を理解する。健康状態、心身の状況、ADL・IADL等
- 時間軸(線)による理解・・・過去、現在、未来の連続体として理解する。その人のヒストリーを知る。
- 環境・システム(面)による理解・・・家族、地域社会、社会資源、経済状況、サービス等との相互関係から理解する。人を環境とのかかわりで理解する。



その人の力(ストレンクス)と、支援の核心軸(エンパワメント)を見定める

6

ストレングスへの気づき

ストレングス(Strength)とは、英語で「強さ・力」の意味である。その人が、元来持っている「強さ・力」に着目して、それを引き出し、活用していく

チャールズ・ラップノリチャード・ゴスチャ

- **個人の属性(性質・性格)**
その人がどういう人かを表すものです。「ユーモアがある」「人なつこい」「努力家である」など。
- **才能・技能**
その人が持っている才能や技能のことです。「生け花を教えることができる」「ホームページを作ることができる」「ギターを弾ける」など。
- **関心・願望**
その人が関心を持っているもの、強く願望しているもののことです。ストレングス・ケアマネジメントでは、もっとも重要視されています。「海外旅行へ行きたい」「料理を教えたい」「漫画家になりたい」など。
- **環境のストレングス**
その人の持っている資産、人間関係、近隣の地域資源など、その人の外にあって活用することのできるものが環境のストレングスです。「お金には困っていない」「親戚のおじさんが近所で見守ってくれる」「商店街が近くにある」など

7

ストレングスの活用を意識する

ストレングスを利用者の目標の設定として活用
＝夢や希望も利用者の持つストレングス

ストレングスそのものを課題解決のエンジンとして捉え、
その実行に重点をおく
＝ストレングスを活用することから見えてくること、
可能性があることにつなげる

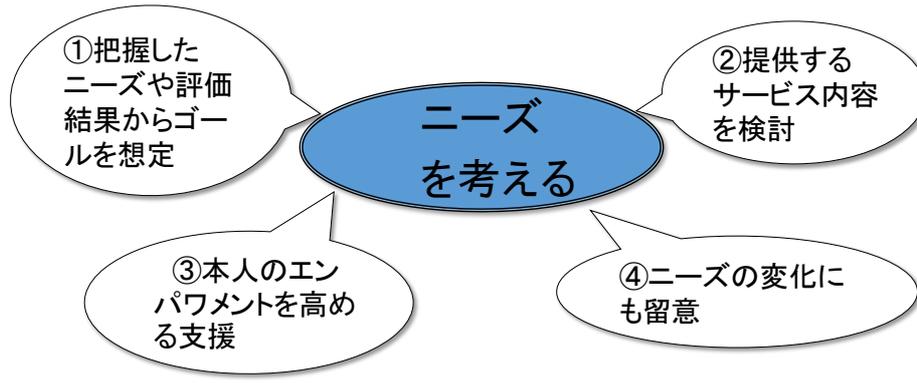
プランを実行するために、利用者自身が取り組む力(内発的動機)、支援者が利用者の力を利用すること(内発的動機の促進)、そのためにストレングスを活用する

8

(3)ニーズを明らかにする

アセスメントを通じ、利用者の主訴(表出されている希望)からニーズへと確定していく。

本人や家族の希望と専門職による評価結果をすりあわせ、利用者に合意が得られるニーズとしていくことが大切である。



9

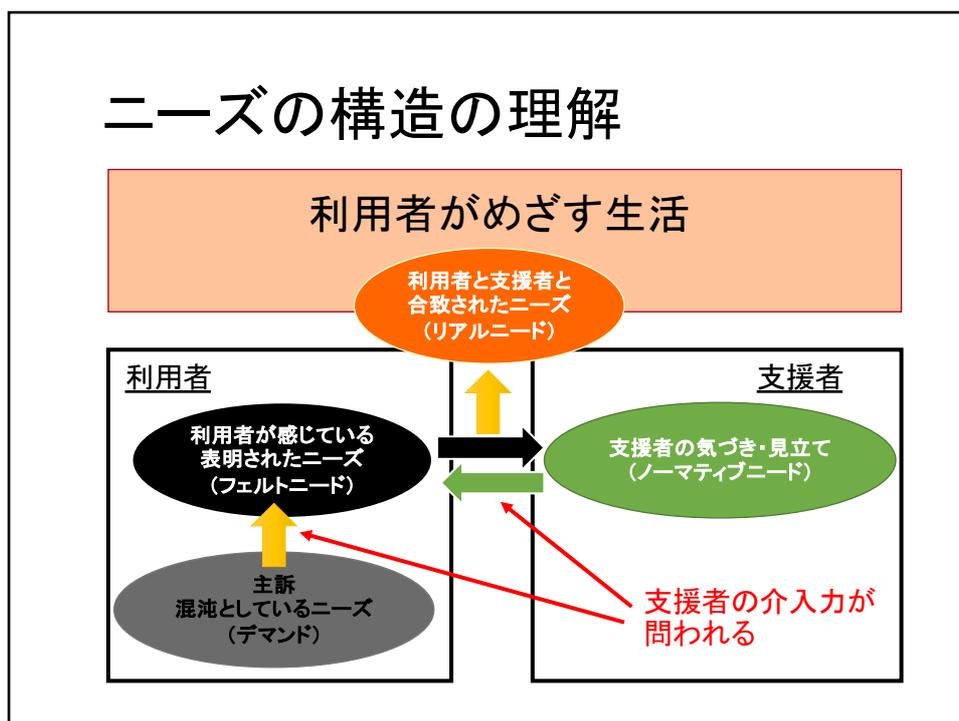
アセスメント

～ニーズを明らかにするプロセス～

- アセスメントは、利用者へ理解を深めていく中で、どのようなニーズを持っている人なのかを明らかにしていくことである。そして、そのニーズは利用者と支援者が合意できるものでないと支援を開始することが難しくなる。
- つまり、両者が合意できたニーズによって、利用者がめざす生活の実現に向けて協働して取り組むことができると言える。その人独自の生活を尊重し、より良い生活を目指すためには、アセスメントによる適切なニーズを、利用者との共通理解を図りながら把握していくことが重要と考える。
- ニーズが把握できれば、次の段階として計画の立案に入り、そのニーズごとの目標設定や目標を達成するために必要な支援やサービスの選択などが、利用者主体の視点で行われていくことになる。

10

ニーズの構造の理解



11

アセスメントにおける サービス管理責任者の役割

- 主訴(表出されている希望)は、ニーズの一つであるが、本人の想いをすべて代弁しているわけではない。
- また、障害を負って間もない方や家族は、希望を聞かれても不安な状況にあり、その気持ちを的確に表現できないことを理解しなくてはならない。
- 機能訓練事業では「身体機能の改善・回復」を多くの利用者は希望として表出する。しかし、その背景には「仕事に戻らなければ」「家族として役割を果たさないと」等の様々なニーズが秘められていることが多い。そのため **利用者の背景にあるニーズへの気づきの支援**もサービス管理責任者の重要な役割となる。

12

- サービス管理責任者は、主訴(表出されている希望)の背景にある想い、「心身の状況」、「していること・できること」、「本人を取り巻いている様々な環境」、「これまで生きてきた人生・価値観」などが相互に絡み合い、目指すべき生活となっていくことを**利用者と共に確認しながらまとめあげて行く。**
- ニーズを明らかにするプロセスでは、サービス管理責任者には色々な生活や社会参加の状況が可視化できるように情報提供が求められ、**具体的生活の再構築に向けた支援を組み立てていかななくてはならない。**

13

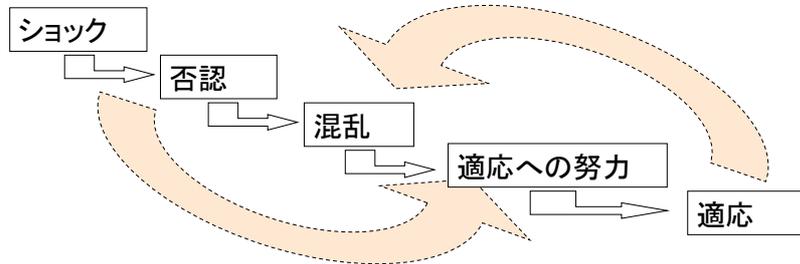
(4) 身体機能のみならず心理状態を把握することの大切さ

自立訓練(機能訓練)は、身体障害者に対するサービスではあるが、身体機能のみならず心理状態もアセスメントする必要がある。

- 「障害受容」という言葉のうらに潜むもの
知らず知らずのうちに否定的なメッセージ
障害は、受容させるものではなく、するもの
- 利用者が、障害を「受容しているか」、「受容していないか」ではなく、**障害や障害のある自己をどのように捉えているのか、理解に努めることが重要**
説得や助言よりも、「やってみること」からみえてくることもある
障害に関する知識・社会参加の状況・現実検討力・自己効力感
- **精神疾患、高次脳機能障害、発達障害などの合併があれば、まずはそれらの症状に対する支援の検討が優先**
認知機能の低下は、高次脳機能障害のみならず、うつに伴ってみられることもある
- **家族に対する心理的支援も視野に入れることが重要**
時には、利用者と家族との橋渡し役としての役割が職員に求められることもある
家族だからこそ、「言えない」「聞けない」ことがある

14

障害受容のプロセス



「障害受容」のステージ理論に対する批判

- ステージ理論にあてはまらない事例の存在
- リハビリテーション効果が上がらない要因を、障害受容の問題にすりかえてはいないかというリハビリテーション批判
- 障害受容に関する当事者責任への偏重と社会的責任の軽視

15

(5) 利用者中心の支援を進めるために(若年障害者)

1. 体験・経験不足



2. 情報不足・理解の困難や制限



3. 意思の表出手段の制限

・体験・経験の場の提供

- ・体験学習、体験利用、実習などの機会の提供(経験の拡大⇄安全の確保)
- ・社会生活力プログラムの実施
- ・失敗経験も時に要(但し見極めが必要)

・情報提供と理解の促進

- ・「本人の責任」に押し付けないためのメリット・デメリットの説明
- ・選んだサービスの目的と効果を確認

・選択が承認される経験

- ・「意思」を表明したいと思う動機づけ
⇒安心・安全でなければ心は開けない
- ・「選べる」といいながら「選ぶ」ものがない! ?を極力減らす。
⇒「あきらめない」「あきらめさせない」

・意思を表出できる環境・手段の確保

16

利用者中心の支援を進めるために(中途障害者)

1. パワーレス状態
主体性の低下



2. 受障(傷)前後の違い
への気づきに時間が必要



3. 意思の表出手段
の制限

・生活史からストレングスを探す

・障害ではなく「その人」を見る。

・主体性の回復

・障害があっても「できない」から障害があっても「できる」という自信の回復。

⇒自律的存在としての復権。

・活動・選択肢が広がる環境設定。

・内発的動機付け。

・自己効力感(役割)の回復。

⇒「患者」から主権者(市民)へ

・気づきを促す支援

・体験的プログラムを通して気づきを促す。

・価値観の変換。

・意思を表出できる環境・手段の確保

・表出手段の確保(「もの」を活用)